

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立堀川小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語や理科においては、質問紙からも「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」と回答する児童が全国と比べ多く、概ね学習内容も定着していると言えます。	(1) 理科では、昆虫の体のつくりや実験器具の名称など基礎的知識に課題が見られました。実験や観察など、具体的な体験活動を通して、正しく安全な実験器具の使い方や観察方法をおさえつつ、授業を組み立てる必要があると思います。
(2) 算数では立式の理由を問う設問において、示された場面を解釈し、除法で求める理由を記述することができています。概数について、四捨五入や切り上げ、切り捨てについてどのような場面で使うとよいか理解が不十分のようです。	(2) 基本的な計算や知識は身につけていると思われる。本調査のように思考や考え方を読み取って、答えを導き出すことに課題が見られました。思考を育てるために、具体物を操作して、身近な場面で多様な導き方を想起し、予想を立てて解決しようとする力が必要だと思えます。
(3) 質問紙では、毎日の生活リズムが安定して、学校にも楽しんで通っていることが分かります。先生にもよいところを認められ、将来の夢や目標をもって過ごしているようです。決めたことはやり通そうとする根気や困っている人に手を差し伸べる優しさも養われているようです。	(3) 学習課題に対し、きちんと取り組むことができていますが、自分の考えを分かりやすく伝えることに苦手意識があるようです。日常生活の中でも、周囲に発信できる力を育むことが必要だと思えます。

2 昨年度の取組の分析と考察

昨年度、本校では「国語・算数・英語の勉強は好きですか」「自分にはよいところがあると思えますか」という質問に肯定的な回答をする児童が少ない傾向が見られました。自己肯定感豊富な育ちの基盤になると思っているところでしたので、今年度は全国比5ポイント以上上回ったことは大変うれしく感じます。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか」については9割を超える児童が肯定的な回答を示し、職員の取り組みの成果として誇りに思えます。また、国語と理科についても「勉強が好き」と回答した児童は、全国のそれを上回り、意識の向上が認められます。

この理由の一つに、昨年度から校内研究で取り組んでいる授業における学習用端末の活用があるのではないかと考えられます。自分が興味を持ったことを深く掘り下げ、疑問に思ったことやわからないことも積極的に調べることで、主体的に学習に取り組む意欲につながっていると思えます。算数においても、図やグラフの内容、図形の意味や性質、構成など今後もさらに効果的な指導に役立てていきたいと思っています。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

- (1) ICT機器の活用に児童も慣れてきています。授業では自分や友達の考えを共有することに学習用端末を活用しています。また修学旅行や校外学習、芸術作品の鑑賞など幅広く使っています。授業以外でも、自主的に学びの定着や深まりのツールとして活用しています。今後も有効な学習ツールとして情報モラルも含め、取り組んでいきたいと思えます。
- (2) 自主的な学習の定着に向けて、基本的に宿題や課題を通して、家庭で学習する習慣づけを行っています。興味あることを調べる活動も継続しています。考えるプロセスを尊重し、児童に学習すること、知識が広がることは楽しいことであるという思いを今後もさらに育んでいきたいと思えます。
- (3) 豊かな心の育成及び想像力の伸長に向けて、読書も必要だと考えています。授業での読書活動にとどまらず、学校司書の協力を仰ぎながら、学校図書館の活用を広げ、読書活動のさらなる推進を図っていききたいと思えます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

本校の児童の質問紙に対する回答から、登校するまでと帰宅してからの生活リズムが安定していることで、児童にとって、学校で学ぶための安心と意欲につながっていると感じました。地域と保護者のみなさまに温かく見守られながら、児童も笑顔で元気に学校生活を過ごしています。今後どうぞよろしくお願いいたします。